

主図版①  
「安樂富貴」の瓦当



図版②-1 安樂富貴瓦当と同文で文字の  
布置が異なる例



図版②-2 安樂未央瓦当で同系の布置の例



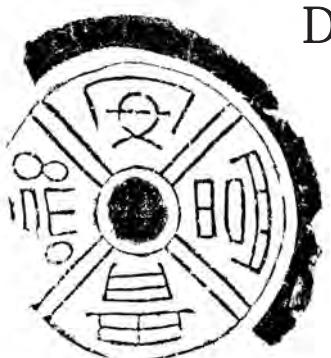
図版③



・園田湖城手拓本



・原瓦当



・『琴帰室瓦当文鈔』所載本



・木鶏室手拓本

## 「秦漢時代の瓦当と磚文」 ⑥「安樂富貴」字瓦当 がとう 後漢時代

図版④

全日空の国際線の機内誌の表紙 (1996年)



二十年ほど前に学生時代から集めていた瓦当拓本資料に歴代と新出土の資料を加え、一年ほどかけて精選・整理し「秦漢瓦当文」(1995年・日本習字普及協会刊)を仕上げた。その過程で東京の古玩店にて珍しく四件の「億年無疆」[萬年未央]「與天久長」「安樂富貴」瓦当に出会った。最初の「億年無疆」瓦当は、面白いことに全く空の国際線の機内誌の表紙を飾った。水仙の花一輪が「億年無疆」瓦当の上に置かれたシンプルな構図であった(図版④)。その後、十数年してこれらが大変に珍しい瓦当であることに気がついた。今回の一「安樂富貴」瓦当も種々の拓本資料にはなく、大正三年に西東書房から刊行された『琴帰室瓦当文鈔』に掲載され、それが転印されていた。この本は、大正三年に

湖城手拓瓦当拓本を見いだした。先に入手した四件の瓦当拓本が有り、藤井有隣館所蔵瓦当との題記が書かれていた。これらの瓦当は、恐らく大正の初めに来日した黄中慧の手から京都の藤井有隣館の所蔵に帰し、戦後何らかの理由で市中に流れたのである。「億年無疆」を除いた三件は、他に類品が見られない大変珍しい瓦当である。

伊藤滋 (書齋名・木鶏室)

# 書道芸術院

## 平成の群像 (2017)



早 村 春 鶴



「花」

舞鶴市展出品

早村春鶴書

### 自然に生きる

自分には無関係だと思っていた原稿依頼に戸惑いつつ、自分の過去を思い浮べてみました。

我が師、恩地春洋先生とお会いしたのは、約60年前のことです。恩地先生からは、書

の道だけでなく、人の道も、俳句の道も、時には酒の道も教わりました。ある時、「書を志す以上、書学徒であります。續けることが大切だ。学ぶ姿勢を忘れてはいけない。挑戦し続けることが大切だ」と、教わったことがあります。

以来、金文・甲骨文・トンパ文字等々にも挑戦してみました。また、時には、筆も太い筆から細い超長峰の筆など、用具にも

俳句は、自然の中に生きる無名の世界です。一木一草、一輪の花でも、人間に劣らぬ氣品と存在感をもっています。良寛さんは、その様な世界を肌身で感じとっています。

いわば、宗教の世界に生き、学問・詩歌・書道・俳句をも究めた学僧でありながら、一介の庶民として、乞食坊主のように庶民の間に溶け込んだまま、その生涯を終えました。  
肩を張らず、あくまでも自然体で、書にも俳句にも自分なりの世界を築いていきたいと思っています。ご指導の程よろしくお願いいたします。

の道だけではなく、人の道も、俳句の道も、時には酒の道も教わりました。

ある時、「書を志す以上、書学徒であります。續けることが大切だ。学ぶ姿勢を忘れてはいけない。挑戦し続けることが大切だ」と、教わったことがあります。

俳句は、自然の中に生きる無名の世界です。一木一草、一輪の花でも、人間に劣らぬ氣品と存在感をもっています。良寛さんは、その様な世界を肌身で感じとっています。

変化を求めて挑戦してみました。どれも求めることは出来ませんでした。でも、諦めたわけではありません。生涯、一書学徒として、研鑽を積んでいきたいと思っています。

恩地先生とある句会の帰り道で、突然に

「ひがしさいば暑さを忘れ益踊」。これ誰の句か判るかと質問されました。良寛さんの句だそうです。良寛さんは、句の数は和歌ほど多く残っていませんが、自然にしみついた人間味あふれるものが多く、そこが他人の真似の出来ない境地だと思うとも教わりました。

# 書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

## 第70回記念書道芸術院役員作品巡回展 九州展 盛大に開催

創立70周年を迎えた書道芸術院は2月の本展を盛況の裡に終了し、記念事業のメイン事業として全国13の総支局を巡回する「役員作品巡回展」を開催中。

4月27日～30日、大分県立美術館にて「第70回記念書道芸術院役員作品巡回展＝併催九州支局展」が盛大に開催された。一昨年新装なった美術館は素晴らしい会場で、巡回展作品も印象が新しく感じられ、支局展では牧泰濤支局長はじめ主要幹部による超大作、支局員の作品も一人2点傾向を変えて発表されるなど、意欲的な取り組みで充実していた。

初日の27日午後、会場にて作品解説会が開催され、担当理事（辻元理事長・小竹常務理事・坂本理事）による院の歴史からの全体および各部の作品傾向や特色などを作品を基に具体的に解説を行った。更に後半は出品者各自の作品講評を担当理事が分担してほぼ全員の希望にこたえたのが好評であった。夕刻からは会場をホテルに移し、祝賀懇親会が地元ご来賓をお招きして盛大に行われた。中でも今年から毎日書院展名資格の作品サイズを大幅に見

道展で近代詩文書部審査会員に行橋市の高田幽玄氏、漢字部会員に地元大分の児玉船光氏が特別選考で昇格されたことを慶賀するセレモニーも行われ、セージを披露したことでも会を大いに盛り上げた。

## 高木聖鶴先生お別れ会しめやかに

文化勲章受章者・日展顧問など現代日本のかな書道界の第一人者であった

高木聖鶴先生が本年2月24日ご逝去され、4月28日郷里岡山にて追悼式が挙行された。本院にとっては三宅素峰先生

が開催された。世話になつた先生であった。院を代表して辻元理事長・小竹石雲・下谷洋子常務理事ほか岡山関係の会員諸氏が多数参列弔問に訪れた。ご冥福を心よりお祈り申し上げたい。

## 公益財団法人書道芸術院理事会

5月13日（土）午後、本院定例理事会が院事務所にて開催された。午前には監事による監査が実施された。

主な議事は

- 平成28年度事業報告
- 平成28年度決算報告・会計監査報告
- 定期評議員会の招集

・第71回書道芸術院展関係人事（参与別選考、ほか）

・第71回書道芸術院展作品サイズ変更

・連盟総会 6月12日12時30分より

直し、全体にやや大きめに設定した。  
詳細は募集規定にて確認を。

\*審査会員（毎日展役員サイズ）

\*無鑑査、一般公募は本紙サイズを指

\*審査会員候補（毎日展公募サイズ）

\*秋季選考委員・18年度からの企画などが審議された。詳細は別記（次号）院報・71回展募集要項にてご確認を。

・同 新企画案（大作揮毫者）

・秋季選考委員・18年度からの企画などが審議された。詳細は別記（次号）院報・71回展募集要項にてご確認を。

・書写書道連盟理事会開催

5月11日上野精養軒にて定例理事会が開催された。

上野精養軒にて開催される。  
・講演会 同日14時より開催。  
講師 横国大教授 青山浩之氏

\*誰でも聴講できます。（連盟要申込）

II新しい学習指導要領の方向性』

\*誰でも聴講できます。（連盟要申込）

## 第69回毎日書道展公募・会友搬入状況

5月15～17日第69回毎日書道展の公募・会友作品の搬入が行われ、26日から鑑別が行われる。

## 第69回毎日書道展公募・会友

5月15～17日第69回毎日書道展の公募・会友作品の搬入が行われ、26日から鑑別が行われる。

# 現代詩文書

(三)

山田梓江



第67回 每日書道展 山田真佐子の句を3句

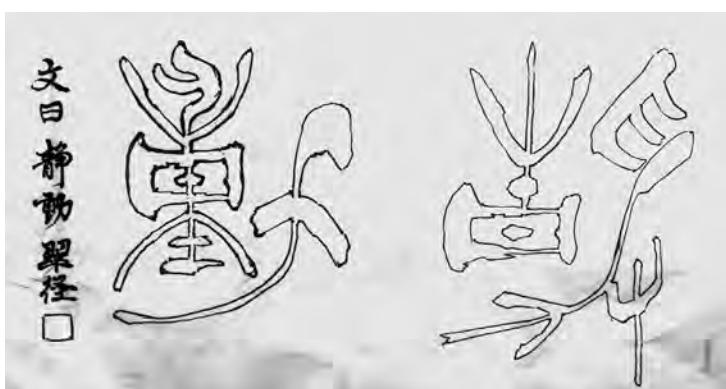
山田梓江書

祖父母を見送り、それまで籠の鳥のように家に縛られていた母は、60歳になって初めて大空の空気を満喫するかのように、俳句、俳画、ちぎり絵、写経、その他諸々好きな事を精一杯やり、長患有もなく2年前に旅立ちました。母が90歳になつたころから母の喜ぶ顔を見て、15年間母の句を書き続けておりました。亡くなつた日は丁度「母の日」と重なり、通夜の中でしたが母の日のプレゼントと供養をしたいと筆をとりました。母の好きな色の紫色に藤の花の模様がある画仙紙を選び、遺品のノートから3句抜粹して、母に抱かれているような感覚で書きました。悲しみと多忙で1枚のみの仕上げでしたが、その作品を毎日展に出品させてもらいました。その後、母の句は心中に封印しています。

詩文書は、その時何を書きたいか?題材選びが重要です。作品は自分を映すのですから、人それぞれキャラクター、環境、性格、用具などにより、作品もいろいろ変化しますが、自分の気持ちを素直に表現出来るように、年齢を重ねても感性と技術を磨いて、好奇心を失わず感動出来ることを探してい

る毎日です。

## 21世紀の書 —私の主張—



かご字作品

# 篆刻・刻字 (三)

清水翠径

書稿が完成後は、透き通る紙(トレーシングペーパー等)を重ね、文字の輪郭(外側)を小筆をつかって細い線で文字の形を作ったものが「かご字」である。この方法を昔は「双鉤」といっ

た。まだ写真のない時代、中国では複製本を作るときに、「双鉤填墨」といって透き通る紙を文字の上においてその文字を二重の線でかこみ、その中に墨を塗つて元の文字とそっくりなものを作る方法を考えた。この方法でできたものに、王羲之書、双鉤填墨本、喪乱帖等があり、これは現在御物として保存されている。かご字が完成後は、糊をつけた材に薄紙を貼り、乾燥する。これで書稿準備の完成となる。書を石に刻み、木に彫ることは、書の発生と同時に起つたものと思われるが、書そのものとはまた一種異つた風趣があり、刻字を志す人々は、発展をつづける事が望まれる。その為には第一に刻者自体が、本当の書を理解しなければ、刻字は単に大工仕事になつてしまふ。また刻字における着色は、特に風雅を宗とし、創意工夫をもって、書作品を高める色調の研究も望まれる。次回からは彫りの種類、着色、金箔仕上げについて、申し述べた

く思います。

# 平成29年度 新審査会員作品

II

一森映泉（漢）・加藤鶴流（篆）・佐藤弦佳（現）・山崎雲外（漢）

III

一森映泉  
(大阪)



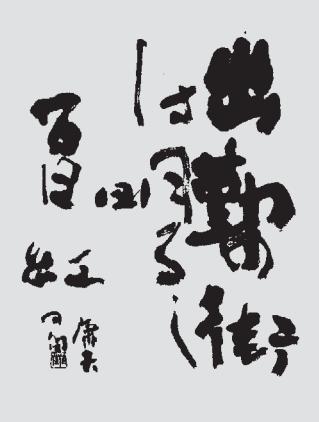
「緩急自在」

緩急自在

自立

漢字部審査会員昇格大変嬉  
しく光栄に存じます。亡き恩  
師春洋先生はじめ、小林琴水  
先生、書道芸術院の諸先生方  
には心より感謝致しております。

「緩急自在」 緩めたり厳し  
くしたり状況に応じて筆を人  
生を操れるようになりたいと  
書作致しました。これからも  
初心忘れず精進して参りたい  
と思います。  
(映泉)



佐藤弦佳  
(宮城)

「出勤の街…」

この句が真っ先に私に与え  
たイメージは、「勤行」です。  
健やかな身体、お勤め前の軽  
い緊張感。小さな発見と感動  
ができる程の心の静寂。  
慢心を払い、謙虚な気持ち  
で紙に向かうことを心掛け、  
堅さ、沈着さ、その中にも明  
るさや清々しさなどを作品に  
求めて書きました。(弦佳)



「深遠」

山崎雲外  
(鳥取)

学び始めた当初の競書誌に、巻頭言  
に、「硯池に臨み五十年、道半ば」と  
あった。この道に恐れを感じた。あれ  
から40年、遠くて深く、深くて遠くを  
思う。道半ばまで、まだ10年も掛る、  
山陰支局の方々の御指導を受けつつ、  
修めて行くほか道は無い。(雲外)

加藤鶴流  
(長野)



「論語学而篇」

この作品は吳大澂の篆書論語を参考  
に同一文字、行と空間、多字数の表現  
など工夫しました。宮澤梅径先生のご  
指導のもと刻字・篆刻を楽しんでいま  
す。今後は前衛や現代詩文の豊かさも  
取り入れた作品作りに取り組みたいと  
思っています。  
(鶴流)

緩急自在

自立

# 書道芸術院創立70周年記念

## 役員作品巡回展

### 併催 東北総局展

会期 平成29年3月24日(金)～29日(水)

会場せんらいメディアテーク6階  
寒行委員長(東北総局長)

浜田堂光

昨年6月理事会において突如として東北総局長に任命され前総局長(現常務理事)後藤大峰先生より引継いだ。

7月3日(日)参与・常任総務で構成する東北総局役員会を開きあわただしく併催東北総局展(以下東北総局展といふ)の実施要項(会員に対して開催のお知らせ)と、担当役員(総務主任佐藤無極先生。会計主任飯沼恵鳳先生。陳列・撤去主任尾形澄神先生。祝賀会主任太田蓮紅先生)を選び、

祝賀会費8千円、出品協賛費は従来額(審査会員1万円、審査会員候補8千円、無鑑査7千円、一般公募入賞4千円)とした。

出品協賛費について昨今の特に無鑑査・一般公募の負担が大き過ぎているのではないかと10月初、総局役員会に諮り決めた。参与負担なし、常任総務1万3千円、総務1万2千円、審査会員1万円、審査会員候補7千円、無鑑査3千円、一般公募千円(出呈者のみ)とした。

出品者の確認については東北総局会

員名簿にもとづき社中、師名からの情報、本人からの協賛費・祝賀会費の払込、関係表具屋さんからの資料提供を受けまとめた。60点となつた。(60周年記念展65点の展示)役員作品51点(東洋額装搬入・展示担当)と合せて655点の展示となつた。作品は後藤大峰常務理事、嵯峨大拙(高橋小汀先生)も役員作品と並べた。このような状況からメディアテーク会場とも打合せを重ね、また陳列レイアウト及び陳列作業の正確・迅速のため事前に作品裏面に取付金具を付けるなど有隣堂表具店・恵比寿表装店・ゆうげんの方々(3/23には陳列作業から多大の御協力を頂き感謝し、お礼を申上げます。

3/24の開場式の準備をどのように進めたら良いのか、進めるべきなのか正直悩んでおりました。辻元大雲理事長は2日後3/26午前より日本詩文書作家協会春季研究会(静岡県熱海市)理事長として講師陣の先頭を予定し、準備もある事でしょう。また同じく講師をされます小竹石雲常務理事は3/23夕方まで作家協会関西地区講習会(大阪府池田市)講師としての仕事をしている。解決の時間は2/20(土)帝国ホテルで本展の表彰式等控室において東北総局展の状況報告をしていた時の事。理事長から23日午後4時頃会場に行くからのお言葉でした。小竹先生に同行するので遅くなつても23日も宿を準備するので遅くなつても23日に仙台に入つてほしいと懇願した。

3/24開場式朝、当地塩釜はサーと



下谷洋子先生による作品解説

3/26(日)役員作品巡回展担当役員として来場している下谷洋子常務理事(千葉市)による作品解説会が10時過ぎから約30分位行なわれた。引続き下谷先生はかな作品、種谷先生は漢字作品の模範揮毫を行ない多くの観衆から拍手喝采で湧き上がりました。

13時から勝山館において祝賀会を開いた。主催者のあいさつとして下谷洋子常務理事より東北総局会員の存在についてお言葉を頂いた。来賓祝辞は毎日新聞東京本社総務企画部長三岡昭(東北総局仙台)、実行委員長浜田堂光で華華しくテープカットを行ないました。引続き会場内の役員作品51点について辻元大雲理事長が作品解説を行なつた。(3/25(火)毎日新聞・宮城版掲載)統いて指名により出席の常務理事、理事の先生方が感想を述べた。

3/26(日)役員作品巡回展担当役員として来場している下谷洋子常務理事(千葉市)による作品解説会が10時過ぎから約30分位行なわれた。引続き下谷先生はかな作品、種谷先生は漢字作品の模範揮毫を行ない多くの観衆から拍手喝采で湧き上がりました。

種谷萬城先生の作品を出席者とのジャンケンで贈って頂いた。サプライズとして模範揮毫して頂いた下谷洋子先生・種谷萬城先生の作品を出席者とのジャンケンで贈って頂いた。

万歳三唱は千葉蒼玄理事(東北総局総務)のいつもの元気さでご発声頂き、閉会のことばは嵯峨大拙理事(東北総局総務)にまとめて頂いた。

会期中の参観者は1300人程でした。



種谷萬城先生による作品解説



下谷洋子先生による模範揮毫（2）



下谷洋子先生による模範揮毫（1）



種谷萬城先生による模範揮毫（2）



種谷萬城先生による模範揮毫（1）

回記念書道芸術院展・役員作品巡回展  
東北総局展 祝賀会



毎日新聞 三岡昭博様より祝辞

回記念書道芸術院展・役員作品巡回展  
東北総局展 祝賀会



下谷洋子先生より主催者あいさつ



受賞者へ記念品贈呈



# 書道芸術院創立70周年記念

## 役員作品巡回展

### 併催 北関東総局作家展

会期 平成29年3月31日(金)～4月2日(月)

会場 高崎シティギャラリー

実行委員長(北関東総局長)

金井如水

で発表した。

その後、西林乘宣・稻垣小燕・石井明子・大辻多希子・新井京華・大井美津江各先生から講評・アドバイスをいたしました。有意義な時間であった。

午後1時30分から作品解説会を行なわれ、辻元大雲理事長より書道芸術院の歴史・特色などの全体解説があった。

次に石井明子・稻垣小燕担当理事による作品解説が行なわれた。石井先生は作品制作において、歌の内容と使う

料紙の選び方についてお話をあり、稻垣先生は作品制作に使うご自分の筆を持参され、参加者に見せて下さった。

また、作品に使う文章等をどう表現するか、また墨の色合い、余白等の生かし方等細かい部分まで丁寧に解説、ご指導をいたしました。その後書について小竹石雲・後藤大峰両常務理事より歌

の選び方、余白を意識した表現の仕方等、内容の濃いお話を聞いていただいた。

辻元理事長より田守光昭・太田蓮紅・三森慧香・平川峰子・種谷萬城各先生の紹介があり、100余名の方に来場いたしました。3月30日の午後から搬入、陳列。

役員巡回展作品は東洋額装が陳列を担当した。北関東総局作家の作品は、綿密な計画ときめ細やかな展示配列で作品間隔もゆとりの取れた陳列となつた。

3月31日(金)、いよいよ開会初日を迎えた。4月1日(土)は午前10時30分から、

今回展の企画である「審査会員候補によるギャラリートーク」が行なわれた。各部の代表として、漢字部(西川翠嵐・花里智子さん)、書道芸術院の奥青燕さん(かな部(藤原三枝子・高橋正子さん)、前衛書部(砂岡裕子・橋支局長、関係表具店等書道芸術院の先生方を含め125名の出席があつた。開

主催者辻元大雲理事長の挨拶、主幹として金井如水北関東総局長の挨拶と続いた。来賓の代表として、(一社)群馬県書道協会新井祥碩副会长より温かいお言葉をいたしました。

次に、来賓者の紹介、乾杯と続き、毎日新聞山根前橋支局長より杯を高く掲げ皆様の「ご発展を」の発声で宴に入り、和やかな時間と交流の場ができる。時のたつのを忘れ和気藹々の中、西林乘宣先生より「参考してください」と皆様や会員の皆様に御礼とご多幸を願って無事帰宅していただきよう」と閉会の挨拶で幕を閉じた。

最終日は、午後3時より撤去・搬出作業が行なわれ、すべてを無事に終了することができた。

役員、スタッフの皆様には多大なご協力ありがとうございました。



入口風景



審査会員候補(漢字部) 奥 蒼燕  
稻垣小燕先生からのアドバイス



巡回展会場



審査会員候補（前衛書部） 花里智子  
大井美津江先生からのアドバイス



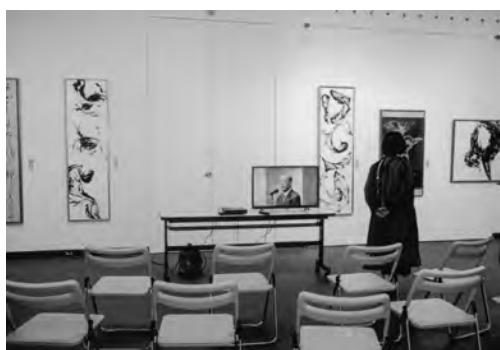
審査会員候補（かな部） 高橋正子  
石井明子先生からのアドバイス



石井明子先生による作品解説



作品解説前の北関東総局長・金井如水挨拶



D V D 放映風景



稻垣小燕先生による作品解説



祝賀会 主催・辻元理事長挨拶



祝賀会開催挨拶

## 牛橛造像記

(北魏) ③

当該古典の左記掲載部分以外も可。



## &lt;解説&gt;

中国・六朝時代とは、魏・吳・蜀の三国時代(220~280)から隋が統一王朝を建てる(589)までの南方六王朝と、北魏その他、北方の各王朝、すなわち「魏晉南北朝」の時代を指す。書道で「六朝の書」と言うと、もっぱら北魏時代のものを指す。

この北魏時代の書を代表するものに、龍門造像記や鄭道昭の摩崖碑などがあり、断崖に掘られた洞窟の壁面や、高く切り立った岩山などに文字が刻まれている。

これらの北魏の書からは、初唐時代の整然とした楷書とは違った素朴な文字造形や、荒々しさ、力強さなど、野趣あふれる美しさを感じ取ることができる。

(編集部)

※掲載図版75%縮小

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみも可)

## 秋萩帖

(伝) 小野道風筆

③

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

&lt;よみ&gt;

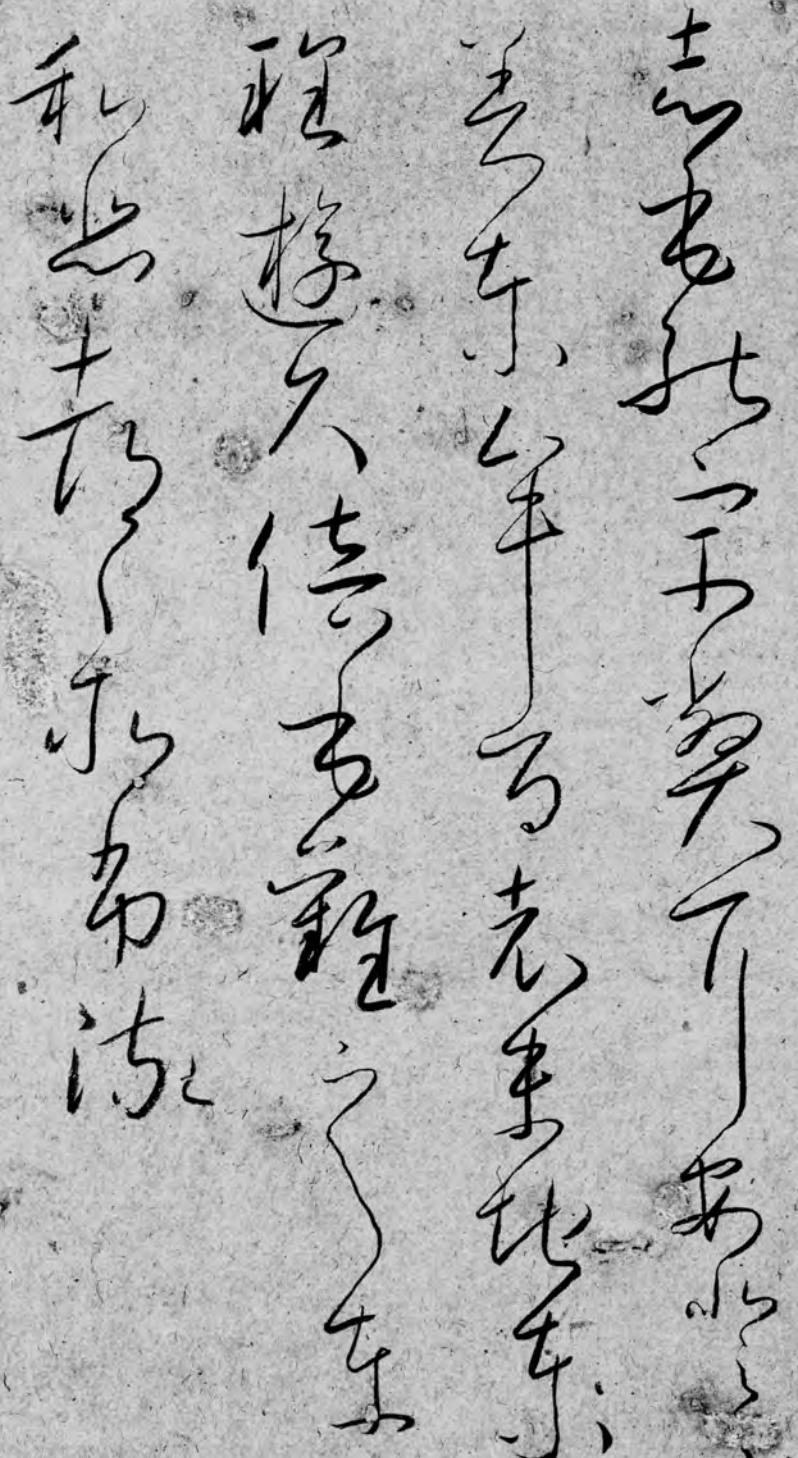
志毛能宇耳安登不  
しものうへにあとふ  
美東半留者末地東  
みとむるはまちど  
理遂久倍毛難之東  
りゆくへもなしと  
和悲所布流  
わびづふる

**解説**  
秋萩帖は、仮名の歴史上、男手(万葉仮名・真仮名)から女手(平仮名)へ移行する過渡期の草仮名の姿を忠実に表現した遺品として、きわめて貴重である。

また、秋萩帖は料紙の裏の継ぎ目に伏見天皇(1265~1307)が花押を記していることから、鎌倉時代には同天皇の遺愛の品であったことが知られている。江戸時代の初めには靈元天皇(1654~1732)の御物となり、その皇子職仁親王に伝授された。その

後、同親王が嗣いだ有栖川宮家に伝えられ、さらに大正一年の高松宮家の創立とともに同家の保有となった。現在、国宝に指定され、東京国立博物館に所蔵されている。  
良寛(1758~1831)が、この秋萩帖を学んだことはよく知られている。江戸時代、秋萩帖は小野道風(894~966)の筆跡と伝えられて人気があり、摹刻本が作られた。良寛はこれを手に入れ、熱心に臨書をくり返し、その書風を身につけたとされている。

(編集部)



(東京国立博物館蔵)

※掲載図版93%縮小

習い方解説 (三)

稻垣 小燕

青子垂枝  
(宋・楊澤民)  
(青子枝に垂れ)

慶春宮

青子垂枝 青子枝に垂れ  
翠陰遮道 翠陰道を遮る  
乍聞一両蟬聲 乍ち聞く一両の  
蝉声 蝉の一声二声。

爽やかな初夏の情景が浮かんで  
きます。

今回は顏真卿の用筆の特徴であ  
る藏鋒で円味のある線質で表現し  
ました。

「青」では月の縦画、「子」では  
縦画からハネ、「垂」では中心の  
線で、「枝」では木扁で特徴を表  
しました。

全体の字形は懐が広く悠然とし  
た運筆で伸びやかさを表現し、墨  
は濃墨、筆は羊毛の中鋒を用いま  
した。

青子垂枝 よみ(青子枝に垂れ)

書体=自由



習い方解説 (三)

大野祥雲

朱明盛長  
(古樂府)

夏の神の徳は盛大である。

「朱」4画目の縦画が中心。1画

目の細い左払いと、最終画

の右払いは構成上大切。

「明」古典では、日と月がほぼ均

等の力関係の場合が多い。

ここでは、日をやや細めに書く。横画の接筆と大きさ

によって明るさが変わる。

「盛」上部と下部に分けて考える

のもよい。上部の戈法が主

画となり、穗先を利かせて

伸びやかに。皿はやや細め

で扁平。

「長」1画目の縦画に対し、4本

の横画の長さ、方向、接筆

など考えて書く。6画目の

始筆の位置と、最終画の払

いはバランス上大切。

かな規定 初段以上【七月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

大辻多希子選書

## 習い方解説 (三)

大辻 多希子

ひどこひ みやこわち  
人恋し都忘れが庭に咲き  
(高橋淡路女)

半紙に俳句、1句を書くときは、  
歌1首の時より太目の筆を使用し  
ます。

俳句は文字数が少ないため線に  
潤いが出なくなるためです。

今回は、古筆の香紙切の躍動的  
な部分や、脚部の処理の仕方など  
を意識して創作に臨みました。

また、連綿線には特に配慮しま  
した。連綿線は、文字と文字を繋  
ぐ役目をしますが、次に繋がる文  
字によってその方向や長さも異な  
ります。

連綿する事で流麗な表現も出来  
ます。作者名も作品の一部として  
考えましょう。強さを内に秘めた、  
伸びやかな美しい連綿を試みて下  
さい。

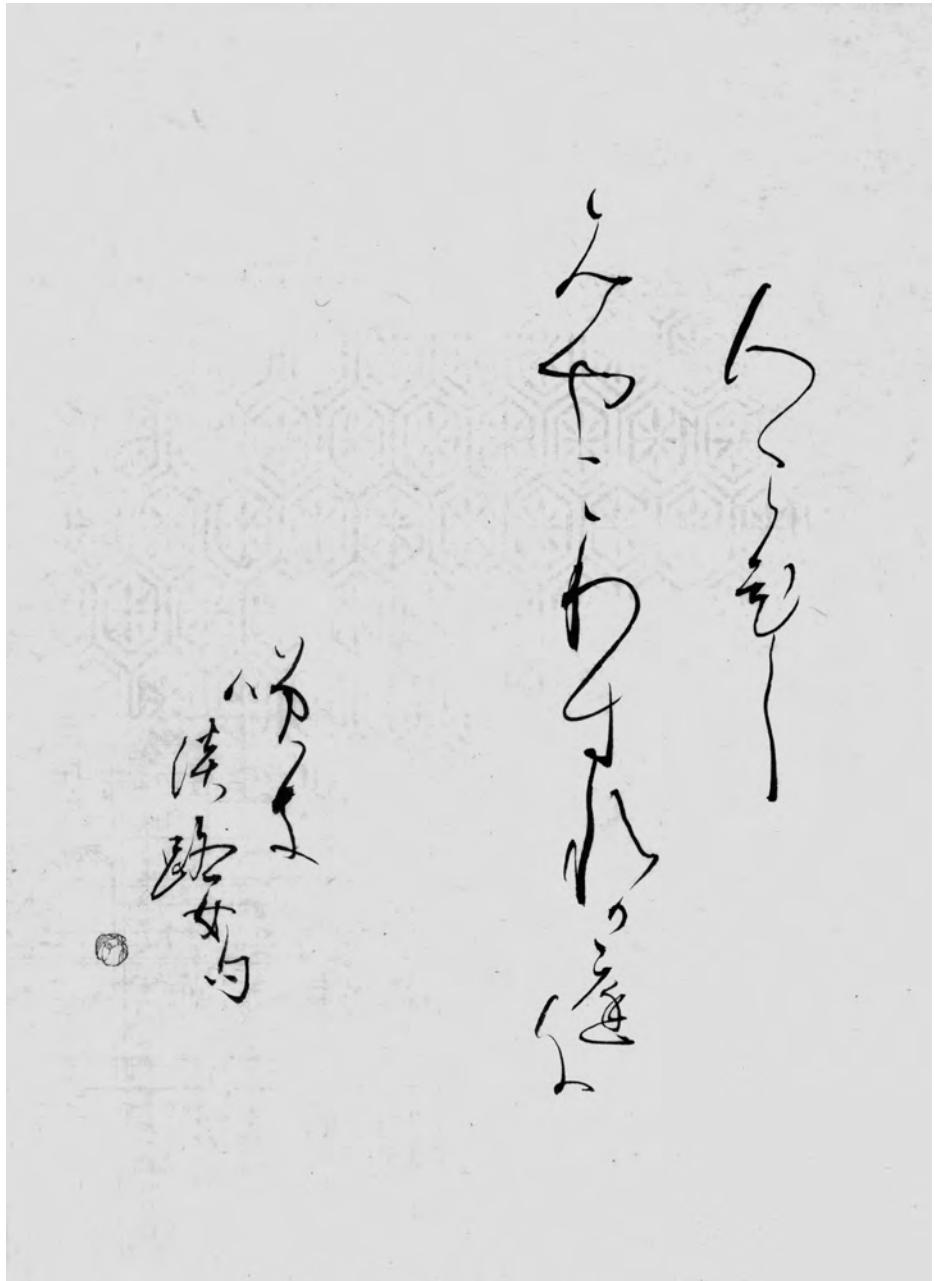
例 香紙切 部分



よみ方 人恋(こ飛)し都(みやこ)忘(わす)れが(可)庭(に)に(尔)咲(き)(支)

淡路女句

創作

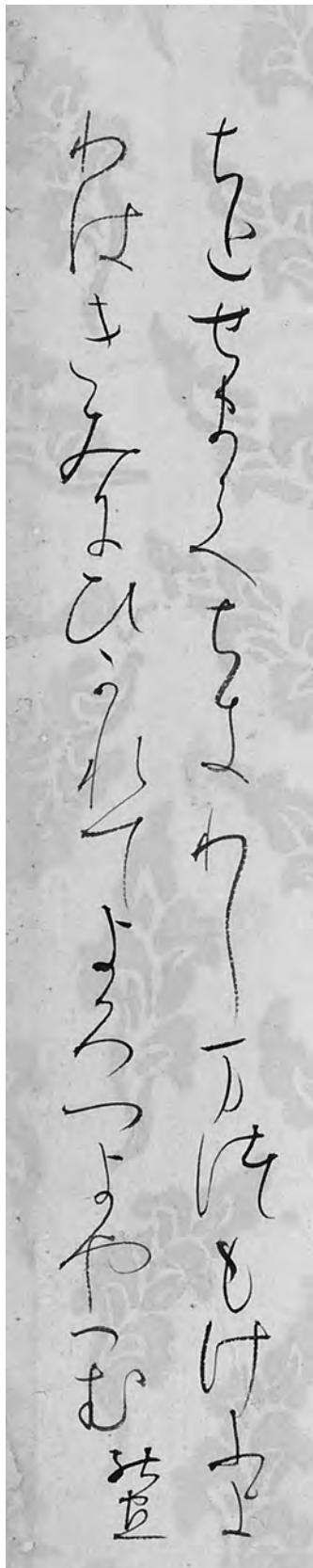
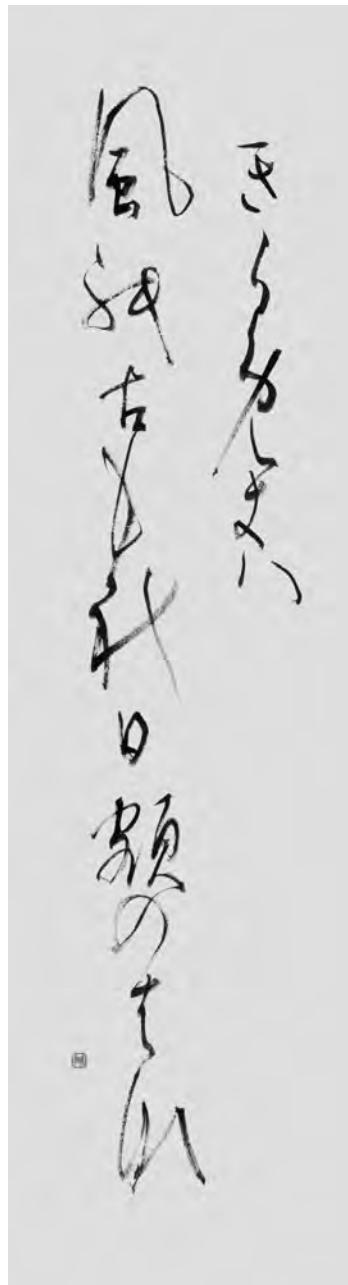


かな規定 秀級以下【七月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$  (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

◎四月号より課題を「粘葉本和漢朗詠集」に変更いたしました。

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集  
(掲載写真拡大111%)



### 習い方解説 (三)

奥田 瑞舟

きらめきは風の木洩日額の花  
(稻畑汀子)

今月は俳句ですが、変体がなを多用しました。

1行目はリズム良く、字は小さめで線の強さを意識して下さい。  
受けて2行目は、ねばりのある線で動きも大きく、躍动感を表現のポイントにして書いて下さい。

落款は印のみにしましたが、丁子句と入ると收まりが良いと思します。

\* タテ形式に限る  
(額の花は紫陽花の一種)

よみ方 きらめ(免)き(支)は(八)風の(能)木洩日(古も禮日)額の花(者那)

創作

辻元大雲



書体=自由

江村竹樹多於草 山路塵埃半是雲  
(江村の竹樹草よりも多く、山路の塵埃半ば是雲なり)

今回も7言対句です。対句表現は味わい深いものがあります。  
草書主体に表現してみました。  
草書はほんの少しの点画の変化で全く別の文字になったり誤りやすいので気を付けたいですね。字典でよく調べて、あまり特殊な形は避けるほうが無難です。また書き慣れないと運筆のリズムが伴わず、形が崩れたり妙な形になりやすいので注意しましょう。

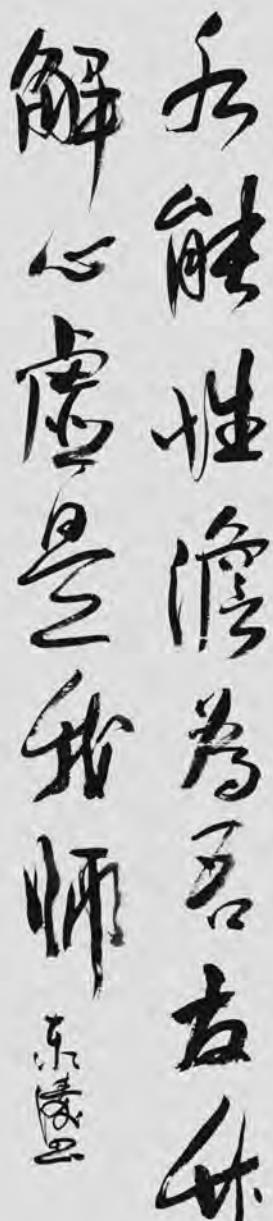
\*タテ形式に限る

### 習い方解説 (三)

牧 泰濤

漢字条幅規定 秀級以下 [七月十五日締めきり] 用紙 小画仙紙半切

牧 泰濤選書



書体=自由

「水は性格が淡白なので良友で、竹は心が直なので良い師である」の意。良友良心を常に持ちたい。今日は草書体を中心で書きました。筆は前用と同じです。長さ55cm、径1.0mmの少し堅めの羊毫筆です。筆の毛質で、書線の表情は千變万化します。「この一本で何でもやつける」ではなく、せめて数種の大小筆を持ちたいのです。

水能性澹爲吾友 竹解心虛是我師  
(水能く性澹吾友たり、竹解く、心虛是れ我が師。)

習い方解説(三)

川島舟錦

イマジン やあ イメージー  
“こらん” ひのゆで  
想い描いてみて “こらん  
国境線なんか存在しない

地球の姿を 舟錦書

用紙=はがきの大きさ(14×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

ペン字練習の際、「下敷き」にはこだわりを持ちたいと思います。ゴムの下敷きを使用している方が、(この頃時々入ってくる) A3判新聞紙を敷いて書くと、一変します。

ペンに、まだ慣れていない方には、新聞紙の間に半紙を1~2枚挟んで書くことをおすすめします。「書きやすさ」を実感するはずです。

つまり、ペンの少しの弾力を、さらに柔らかい下敷きが助けてくれるので、リズムにのって書けるようになるのです。

次に、早く書くといいところ、ゆっくり書くところを捉えて、たくさん書くことをおすすめします。気脈、リズム、ペンの速度を加減できるようになると、書く「楽しさ」を感じられ、さらに練習に力が入るはずです。

※落款(自分の名前)を必ず入れる。

今月の

ホーリー作品  
各部総評 NO. 672



漢字部 師範 宇田川春華  
超濃墨による重厚な作品。筆の浮沈が巧みで、渴筆も紙に負けず美しく表現されている。

◎漢字部総評 「なぜ毛筆で書くのか」という原点に立ち戻ってほしい。筆の機能を十全に生かしたい。

(翠風評)



現代詩文書部 特選 石崎 甘雨

丁寧に書かれた作は、書に向かう真摯な姿勢がうかがわれ、伸びやかで明るい温か味を感じる。

◎現代詩文書部総評 総体的にレベルアップしていますが、推敲の甘いものも散見した。(石雲評)



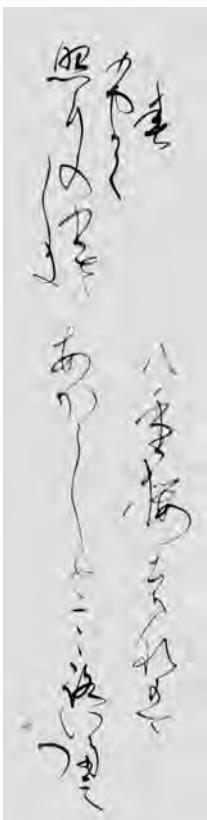
かな条幅部 師範 渡田 竹雪

過剰でない書きぶりは、上下の塊の組み合せを自然に見せてよい。更に温度感が加わることを望む。



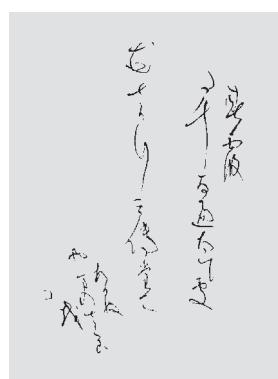
◎かな条幅部総評 誤字少なく、全てよく理解した作品が多くた。過大な字で品性を欠いた作 散見。美と格調は共存です。

(明子評)



かな部 師範 阿久澤隆華  
思い切った散らしで一際目を引く。荒削りな部分もあるが、自分のものを創り上げる気が満ちる。

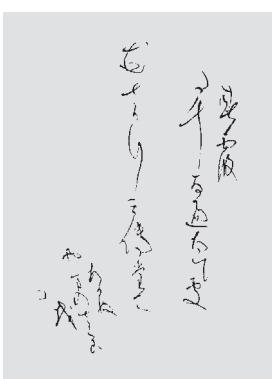
◎かな部総評 誤字もなく無難な作が多かった。オリジナルは、バランスを欠く散らしや字組みが目立つ。古筆の研究を! (洋子評)



ペン字部 師範 村上 和美  
漢字とかなの調和素晴しく、特に筆圧の変化をペン先で表現している所は見事。完成度高く敬服。下部があまりすぎの作品散見。周囲の余白もバランスよく配置を。

◎ペン字部総評 右に片寄ったり、下部があまりすぎの作品散見。周囲の余白もバランスよく配置を。

(雪枝評)



漢字条幅部 師範 前浜 裕香  
ねばり強い重厚な筆致が骨太の表情を見せ、顔真卿の風を感じさせる充実作。更なる努力を期待。

◎漢字条幅部総評 上下級共定番の14字2行書きではば安定した作が多かったが書体書風の変化もつと積極的な取組みを。(大雪評)

(大雪評)

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)



(英峰会)

佐藤桂香

落款一考を。

(藤扇評)

◆牛欄造像記の特徴を熟知し、見事に紙面を圧倒、手腕が窺える。多字数の取り組みに敬服。落款一考を。

(大雲評)

◆牛欄造像記の特徴をよく捉え、なんだ線で心に響く作となっている。落款の位置、全体のバランスを配慮されたい。(仙草評)

「牛欄造像記」

◆原碑の構成に倣い、ほぼ正確着実に拡大臨書する。筆法の確かさが冴えある表情を生む。

◆多字数の臨書を、端正な字形で、習熟した練度の高い臨書。最後まで一貫通した姿勢に感服。

太和十九年十一月使持節司空公長樂王丘穆陵亮夫人尉遲為亡息牛欄請工鏤石造此彌勒像一區額牛欄捨於今段之鄉騰達元礙之境若存託生生於天上者苦累即令解脫三塗惡道永絕因趣一切

115×55cm



(如月) 治田芳江



治田芳江書

60×173cm

「真金ふく」

◆連綿を少なくした作。大字ならではのダイナミックな散らしで、含墨の布置良く、近景と遠景が生まれた。(多希子評)

◆淡いボカシの料紙にややソフトな筆致で潤滑のバランスよく展開する。後半やや弱い感あり。(大雲評)

◆切れの良いタッチで澄み切った線が心を打つ。間のとり方が大変よく、若さを感じる希望の作。(藤扇評)

◆豊かな感覚で、大字かなを連綿を少なくした作で、余白も見事。ゆとりのある流れに仕上げられた魅力ある作。(仙草評)

「現代詩文書」 (もくせい) 西川藤象



西川藤象書

55×175cm

「岡本かの子のうた」

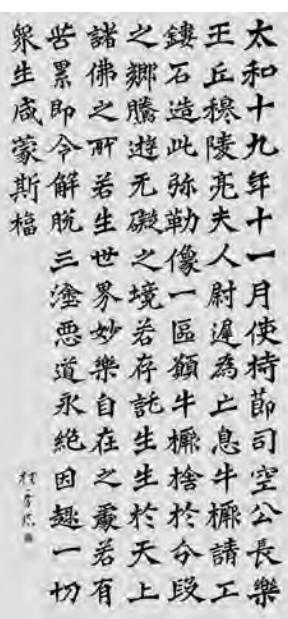
◆明るく爽やかな気分を漂わす作。無理のない柔らかな筆致が味を出す。やや腰が引けてるかな。(大雲評)

◆リズムに乗って爽やかに表現したが、後半の処理があと一息。優しく包み込まれる気持ちがうれしい。(藤扇評)

◆冴えた線質美しくおだやかで明るい作で好感がもてる。柔らかさが利いて爽快感あり。

◆生き生きと躍動感に溢れる。線は自由自在に多様で書き進み、奥深い技量に感服しました。(多希子評)

(仙草評)



佐藤桂香  
臨

臨書

(千葉) 平野笛舟

「牛櫛造像記」



174×55cm

平野笛舟臨

◆濃墨と羊毛筆で粘りの中に、  
着実安定した表現が効果的となる。  
雄大さが作品を更に格調高くした。

(藤扇評)

◆牛櫛造像記の大字2行書で、  
方筆の用筆に習熟し、安定した  
充実作となっている。

(仙草評)

◆2×6尺に2行に拡大しての  
臨書は大味になりやすいがねば  
りある筆致で特徴をよく表現し  
ている。

(大雲評)

◆弾力のある重厚な線が紙面を  
圧している。筆力が充分にこも  
る力強い筆致はひるみも感じさせない。

(多希子評)

「夢」



180×60cm

工藤史音書

◆超濃墨による重厚な筆致  
で、スピード感溢れ紙面を  
圧倒している。上下のバランス  
を考慮して発展を望み  
ます。

◆エネルギーッシュな運筆が  
紙面に動きとリズムを生み  
出し、意欲的な作となつた。  
上下中心少しずらすか。

(大雲評)

◆上段の濃墨の集団からの  
飛沫が、縦作品の中で横へ  
の広がりを強調させている。  
筆力が充ちて躍動的。

◆気迫に満ちた表現力、黒  
と白のバランスを飛沫に託  
し、筆勢と躍動を加味した  
生彩を感じる秀作。

(多希子評)

創作の部(49点)	
漢字	— 4 点
かな	— 4 点
現代	— 22 点
篆刻	— 0 点
前衛	— 19 点
現代書の部(26点)	
漢字	— 24 点
かな	— 2 点
臨書の部	
漢字	— 24 点
かな	— 2 点
〈特選候補者〉	
〔創作の部〕	
〔漢字〕	もく 森田 藤谷 A I 清水由紀子
〔かな〕	うる 篠原 楊流
〔現代詩〕	麗澤 秋山 松延 藤原 三枝子
〔漢字〕	千葉 渡辺
〔現代詩〕	玉州 角張 篤信 三浦 高橋 清琳
〔前衛〕	蓮紅 田村 朱鳳 之扇
〔篆刻〕	角田 坂田 翠苑 氏家
〔臨書の部〕	英峰 吉瀬 彩雨
総出品点数	
75点	

漢字研究部  
(牛櫛造像記)

選評名 越 蒼 竹

今月のホープ作品



笨 隆月

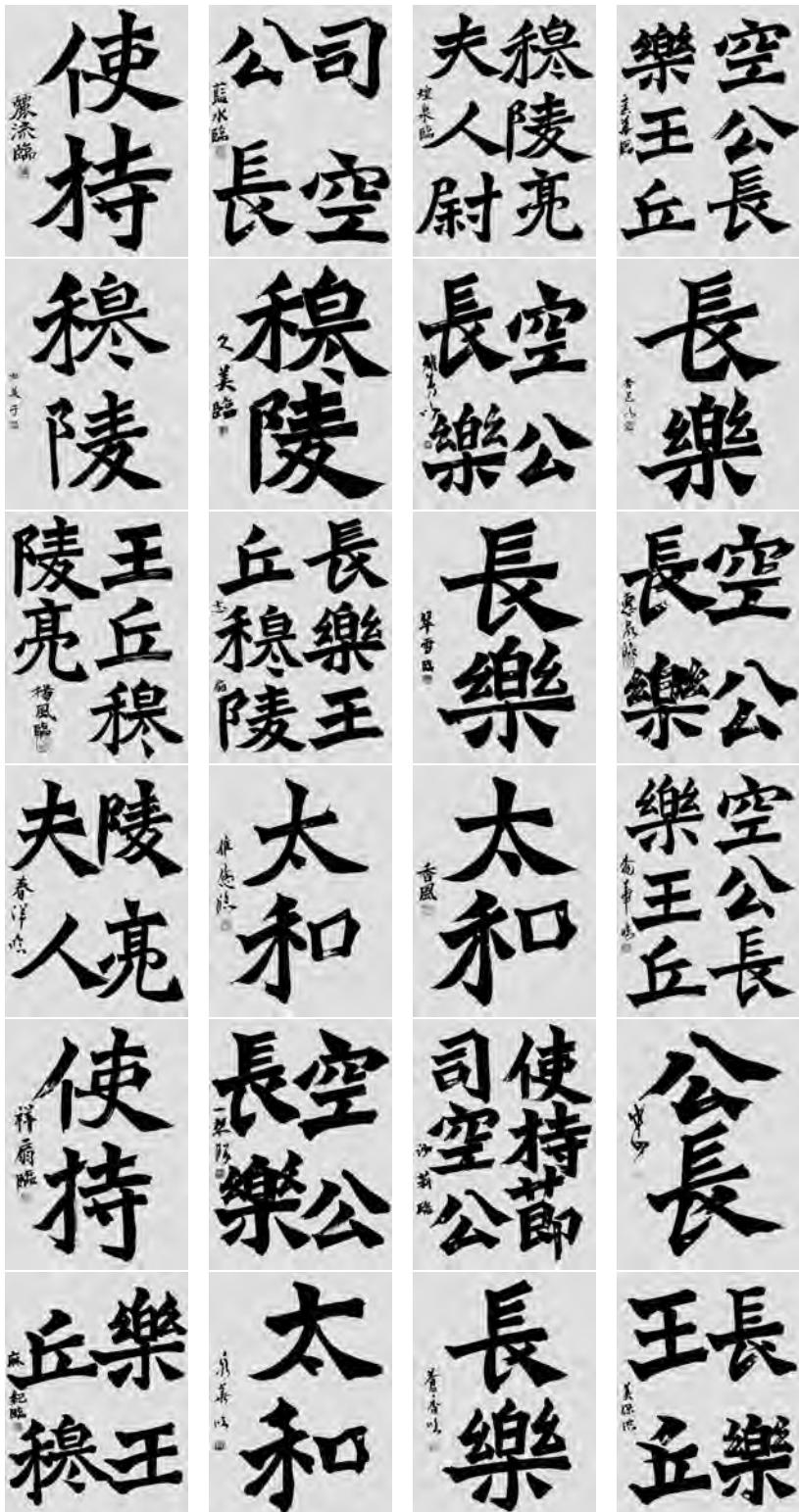
漢字研究部 特選 笨 隆月

濃墨を使って沈着重厚な線質による臨書として成功している。龍門造像記の方筆は筆先が利かないと表現できないが、始筆終筆にしっかりと力がこもり、運筆の伸びやかさも相まって紙面を圧倒する会心作となつた。落款もほど良い。

◎漢字研究部総評

臨書の目的は人によって様々でしょうが、

対象とする古典に関する知識は必ず必要です。ただ知識を前面に出しすぎると観念的な臨書になってしまいます。知識を得た上で、実際の臨書する部分を虚心に観察することも重要で、高く評価できなかった作品はどちらかが欠けていたと思います。今回2文字の臨書が多くありました。対象古典がやや横広の字形だったからでしょうが、実力者は6文字の臨書に挑戦していただきたかったと思います。



ま祥春楊由麗  
美き扇洋風子流

泉一雅志久藍  
華琴悠扇美水

蒼沙香翠雅煌  
香莉風雪芳泉

美成桃恵杏春  
保山華泉邑華

かな研究部  
(秋萩帖)

運評 勝山初美

今月のホープ作品



昇昇枝を飛ぶもあら  
あえく春緋理を出  
乐理萬物がすすめ  
一の絶えの如き

磯貝清耀

◎かな研究部總評  
全体に良く特徴をとらえていました。墨の潤渴が  
かな線質です。漢字の力を持ち合せた堂々とした風  
格があり、品格の高さを感じる作品となりました。  
著しく、読みづらい部分のためか誤字が散見。秋秋  
帖の同じ文字を調べ参考にすると良いでしょう。

かな研究部成績表

かな研究部	特選	磯貝	清耀
万杏幹 里 子邑生	和寿裕	純美耶	幸洋奎
澄Aこ千玉松秀	葉川扇村月書泉春雲か泉葵風音る井！雀田紅松雲秋蓮雲	河野河阿增閏中新日猿高後福齋飯権伊下小本田堀石沼礎 野中岡久口行村高渡橋藤田高木藤津林田中江川田貝	千玉竹松長惹上澄大た竜颶紅潮う高A雲奥蓮玉木有青大 葉川扇村月書泉春雲か泉葵風音る井！雀田紅松雲秋蓮雲
宇岩池五飯青青 田瀬田十木木 川巖	作	特選	河野河阿增閏中新日猿高後福齋飯権伊下小本田堀石沼礎 野中岡久口行村高渡橋藤田高木藤津林田中江川田貝
春祥信佳光松葵 園子栄彩月郷	秀		千玉竹松長惹上澄大た竜颶紅潮う高A雲奥蓮玉木有青大 葉川扇村月書泉春雲か泉葵風音る井！雀田紅松雲秋蓮雲
紅瑠佳	竹も松宗大澄た玉大上玄天紅正A大惹清澄蒼高た文大長蘭大孫こ澄もたA 扇く村苑雲春か松雲泉穹穿瑠華I雲書月春陽崎か筆雲月鼎雲韻こ春くかI		河野河阿增閏中新日猿高後福齋飯権伊下小本田堀石沼礎 野中岡久口行村高渡橋藤田高木藤津林田中江川田貝
藍澤作	山森茂茂堀深浜橋積塚千田須實清驚坂境斎込小河熊草木川河加加小岡梅生 村田木木切堀野本田本葉口田川水山本野藤山野谷刈暮崎合納藤川郡東由		千玉竹松長惹上澄大た竜颶紅潮う高A雲奥蓮玉木有青大 葉川扇村月書泉春雲か泉葵風音る井！雀田紅松雲秋蓮雲
白兆	炎藤翠絢幸清永紅雅え陽代香仁紀美里と翠美加白紫真典優和順翠輝久代美 秀谷芳水雲洗顛霞子子舟美子梢美子香舟子童蘭華子子敬子陽峯子子		河野河阿增閏中新日猿高後福齋飯権伊下小本田堀石沼礎 野中岡久口行村高渡橋藤田高木藤津林田中江川田貝
椿千も菊白 翠葉千月珠入	顧京竹松調硯千清前澄長正前正天倉白も一翠春や琇 緑橋扇草布水葉月橋春月華橋華璋吉嶺く宮柳汀ま韻	芳菊た蘭正英千正華樹正玉楮誠澄高彩華蝶祥和華月海台 蘭月か鼎華峰葉華祥原華藻翠和華春真	千玉竹松長惹上澄大た竜颶紅潮う高A雲奥蓮玉木有青大 葉川扇村月書泉春雲か泉葵風音る井！雀田紅松雲秋蓮雲
安安新新相 藤藤井内	渡吉柳守武宮松真別深平東春林中中富戸鶴近田田竹鈴斎斎小 友藤澤重下府澤山田山里江澤部田池原玉内木藤林板原瀕地谷藤 志美	木吉菊金加葛加荻大鶴植岩伊板石石石飯熟青 瀬原島澤田上藤垣田崎川井泉海木	河野河阿增閏中新日猿高後福齋飯権伊下小本田堀石沼礎 野中岡久口行村高渡橋藤田高木藤津林田中江川田貝
代叙藤恵沙 子孝雪子莉	渡吉柳守武宮松真別深平東春林中中富戸鶴近田田竹鈴斎斎小 友藤澤重下府澤山田山里江澤部田池原玉内木藤林板原瀕地谷藤 志美	木吉菊金加葛加荻大鶴植岩伊板石石石飯熟青 瀬原島澤田上藤垣田崎川井泉海木	千玉竹松長惹上澄大た竜颶紅潮う高A雲奥蓮玉木有青大 葉川扇村月書泉春雲か泉葵風音る井！雀田紅松雲秋蓮雲
生書澄上官山祥土正高誠樹書明弘正八桜昌高八や大大附高幕華正立広雲書苑大伏玉梅渡こ高た土竜う八や花八八正千大洞 大游春泉城王紫氣華崎和原游漢舟華生草苑崎街まで阪山中崎張仙華精島溪游書阪華松桃辺真か氣泉る街ま華葉阪書			
田高高鈴鈴杉杉神神新庄庄嶋波柴篠澤坂酒齊齋小黒国北北木木菊川香小小小小大大大梅梅白今井伊市石石石生安 村橋橋木木木田田保宮公司司谷田田田卷井藤林柳峰村村島島地本川野野野熊川西沢石山木井村門上東藤川渡毛弓駒藤 千与由惠			
春徹幸代昌春睦祥佳玉翠紫咏称美洋美範麗知桂つ萩竹理欣惠幸綾白南翠よ加萩代彩一淳星久寢綾貴心芝京悦紫翠優嘉萩楊 華子苑子恵江子風子枝光千艸子子子苑子え江葉子香子舟音雅汀溪こ都光夏藻子舟枝子鳳子雨子水子翠連			
正明昌も秀竹蓮東幸千や玉椿高竹あ春菊こ玉墨白石幕高澄琇生京土千椿京蘭洞は玉詢高高紅泉洞雲生小千大秀高竜立 選華漢苑く韻美紅伯扇葉ま川翠崎美か汀月だ川宣露習張崎春韻大橋氣葉翠橋鼎書せ松扇崎陵風会書溪大映葉阪水真泉精 外161鷺吉吉吉横遊山山山谷安矢八本富宮宮湊真松松松増眞牧堀平平春林演長野根丹西永中仲豊農戸富富鶴土千 名沼田種川山佐本本口口知鳴口木吉野崎川庭村丸島浦田塩野川山山岡田谷村津西田島村田澤谷田 千裕眞橋鼻満妃タカ			
将鶴翠藤幸蘭紅真梅鈴律美沙登紀明津英洋美ケ陽愛翠玉華栄清魯優彩つ聰雅竹久千陽飛惠雍時寛游翠博萩恵亞つ白 太子綾玉蕙舟雅紀香風子子舟香枝明子子ミ子舟江秀子次春子華子春子雪子峰韵龍子子子子溪玉勝舟彩子希江			